

パブリックコメント対応表

(日本口腔顎顔面外傷学会実施)

No	パブリックコメント意見の概要	対応	修正内容
21頁 GRADEアプローチに基づくCQおよび推奨一覧	～皮膚に瘢痕が残ることは避けられないことの説明とあるが適切な日本語であるか確認ください	採用	～皮膚に瘢痕が残ることは避けられないことの説明 に修正しました。
25頁 臨床的意義	「～中顔面骨折において合併症に関連してプレート除去を要した発生率が低かった(7%)ことから～」は意味が通りにくいと思われる。	採用	～中顔面骨折においてプレート除去を要した際の合併症の発生率が低かった(7%)ことから～ と修正いたしました。
27頁 CQ2 専門家による提言	「頬骨上顎骨複合体骨折は、転倒や殴打などの外力によって発生し、頬骨弓、眼下下孔、頬前頭骨縫合、上顎洞前壁～」と「この骨折に眼窩骨折を伴う場合、骨折線は眼窩下縁、頬骨前頭縫合～」の文章における「頬前頭骨縫合」と「頬骨前頭縫合」とは同じですか？	採用	同じ意味であり、すべて頬骨前頭縫合で統一いたしました。
28頁～29頁 今後の課題	「患者固有インプラント(Patient specific implant: PSI)」と28頁「患者固有のインプラント」についてえ、「の」の有無の統一。Patient specific implant: PSIの訳で、「患者固有インプラント」は大丈夫か？ PSIのスペルアウトは、Patient specific instrumentation (instruments)との説もあり。	一部採用	患者固有インプラントで統一いたしました。 「患者固有インプラント」と「患者固有のインプラント」の表記の揺れにつきましては、本ガイドラインにおいて表記を統一する必要があると考え、修正を行いました。 また、PSIの表記については、「Patient-specific implant(s)」および「Patient-specific instrumentation」など複数の用法が存在することを確認しておりますが、本ガイドラインでは外傷領域におけるインプラント材料を対象としていることから、「Patient-specific implant (PSI)」を用語として採用し、全体で統一いたしました。 なお、本用語の使用については、Kotecha et al. 2023 Orbital reconstruction PSI review においても「Patient-specific implants (PSIs)」の表記が用いられていることを参考にしております。
31頁 CQ3 修復材料	「～多様な自家、同種異系の材料がすべて、程度の差こそあれ成功を収めている。」とあるが、吹き抜け骨折の修復に同種異系(他人間からの骨移植)は報告があるのでしょうか？	コメント対応	眼窩底骨折の再建における同種異系骨 (allogeneic bone graft) の使用については、cadaveric bone graft や凍結乾燥骨を用いた臨床報告が存在することが知られております (Yavuzerら, 2004; Phuongら, 2020)。 しかしながら、これらの報告は主として症例報告や小規模研究にとどまり、吸収や長期的安定性に関する課題が指摘されております。そのため、同種異系材料は歴史的には使用実績を有するものの、現在の標準的な再建材料とは言い難いと考えられます。 Yavuzer R, Tuncer S, Bařterzi Y, Iřik I, Sari A, Latifođlu O. Reconstruction of orbital floor fracture using solvent-preserved bone graft. Plast Reconstr Surg 2004;113:34-44.
32頁 修復材料の現状と今後の課題	「現状、人工材料は自家骨と比較して、材料の組成だけでなく、形態付与においても技術進歩が認められるためよりドナーサイトの安全性や手術時間の短縮などを目的とし、人工材料を使用した再建が増加する傾向にあると思われる。」は日本語として不自然に感じます。	採用	「現状、人工材料は自家骨と比較して、材料の組成だけでなく、形態付与においても技術進歩が認められるため、ドナーサイトの安全性や手術時間の短縮などを目的として、人工材料を使用した再建が増加する傾向にあると思われる。」に修正を行いました。
38頁～39頁 CQ5 臨床疑問の設定、推奨の判断根拠	PICOのアウトカムは12個だが、39頁に「当初設定した13個のアウトカムのうち、～」と、13個になっている。	採用	ご指摘のとおりで12個に修正いたしました。
43頁 CQ6 推奨の判断根拠	「～新規SRを行った。2023年1月以降を対象として、PubMed, Cochrane CENTRAL, 医学中央雑誌で系統的にRCTを検索したところ、認めなかった。」は日本語して不自然です。	採用	「～新規SRを行った。2023年1月以降を対象として、PubMed, Cochrane CENTRAL, 医学中央雑誌で系統的に検索したところ、RCTは認めなかった。」に修正を行いました。
45頁 CQ7 臨床疑問の設定	PICOのアウトカムの記載において、CQ7のみアウトカム9個に番号がふられている。	採用	CQ7の番号を削除しました。